

視察とワークショップ

趣旨

今回の企画は、地域の中核を担う人材育成を目指して設立した「いわて高等教育コンソーシアム」とトヨタ財団研究助成プログラム「被災アーカイブズの新たな保存技術発展へのアプローチ」及び国文学研究資料館の2研究グループとの共催による公文書保存の実態視察とワークショップである。

1990年代以降、日本全国で大規模震災や風水害が頻発している。欧米だけでなくアジアでは中国・韓国においてもアーカイブズは重要視されているが、ようやく日本においても、災害の経験を経て注目されるようになってきた。しかし、まだ十分といえるようなものではない。

いわて高等教育コンソーシアムは、東日本大震災以降、公文書保存に対する意識の高まりに呼応して、岩手の公文書保存についての調査研究を継続して展開している国文学研究資料館のアーカイブズ研究グループと連携して調査研究に参画し、シンポジウムや講演会を開催してきた。

岩手県のアーカイブズの実情は、県も公文書館を有しておらず、東日本大震災まではアーカイブズについて高い意識を持っていたといえる状況ではなかった。しかし、この大震災以後、市町村のレベルではアーカイブズの重要性について意識が高まりつつあり、いくつかの市町村では既に具体的な動きがある。

今回は、この国文学研究資料館のアーカイブズ研究グループといわてコンソの研究チームが、イタリアから招いたバチカン図書館アンヘラ・ヌーニェス＝ガイトン氏、イタリア国立アーカイブズ・図書資料保存修復中央機構の機構長、副機構長とともに釜石市・大槌町・遠野市の公文書保存の取り組みを視察し、その成果を盛岡市内の会場でワークショップとして公にしようというものである。

釜石市と遠野市の取り組み

震災後の岩手県の公文書保存を考える

■ワークショップ — 震災後の岩手県の公文書保存を考える —

● 総合司会 / いわて高等教育コンソーシアム地域研究推進委員

● 挨拶 / 盛岡大学学長 徳田元

● ワークショップ / 司会 国文学研究資料館准教授 青木睦

コメント: バチカン図書館 アンヘラ・ヌーニェス＝ガイトン氏

イタリア国立アーカイブズ・図書資料保存修復中央機構

機構長レティツィア・セバスティアーニ氏

副機構長エウジェニオ・ヴェーカ氏

いわてコンソの参加者・学生

■ 参加申込締切 2018年2月3日(土) (開催日 / 2018年2月8日(日))

■ 申込先 FAXまたはメールでお申し込みください。
盛岡大学地域連携センター FAX 019-688-5577 メール chiren@morioka-u.ac.jp

■ 申し込みリスト

(ふりがな)		学校名・会社名
氏名		
住所	〒 -	
(ふりがな)		学校名・会社名
氏名		
住所	〒 -	